

トップコミットメント

常に新しい価値を提供し、社会から必要とされる企業を目指します。



先の東日本大震災において被災された方々に心よりお見舞い申し上げます

先の東日本大震災は想像を超える被害をもたらしました。カシオのお客様やお取引先の中にも甚大な被害を受けられた方々が大勢おられます。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興を祈念しております。

カシオも一部の事業所が被災しましたが、全員の協力により早期に復旧することができました。事業上の影響はあるものの、極小化すべくあらゆる対策を講じていきます。

また、今後の復興に向けては、被災地の方々のニーズを把握しつつ、お役に立てることは何かを考えながら、さまざまな支援を継続していきます。

世の中に新しい価値を提供する

1957年、世界初の電気式リレー計算機を発明したことで、カシオ計算機は創業しました。

当時、事務用の計算機としては外国製の電動機械式計算機が主流でしたが、この計算機は圧倒的に静かで演算速度も速く小型であり、あらゆる面から従来の計算機の性能を凌駕するものでした。こうして、この計算機は瞬く間に市場に浸透しました。

このように、従来にない全く新しい製品を開発するという事は、新しい価値を世の中に提供するという事に他なりません。以来50年以上に渡り、カシオはパーソナル電卓、デジタル時計、電子楽器、電子辞書、デジタルカメラ等、世界初も含めてさまざまな製品を開発し、世の中に新しい価値を提供してきました。

そして、人々の生活を便利で豊かにし、その価値が世の中に認められることによって、新しい市場が生まれ、新しい文化が生まれます。これが経営理念である「創造 貢献」の実現であり、ここには「0→1」を生み出すカシオのDNAが息づいています。

持続可能な社会の実現に向けて

カシオは早くから環境問題に着目し、製品の環境負荷の低減に努めてきました。そのためカシオの製品は高機能でありながら、徹底的に小型・軽量・薄型・省電力を追求しています。

製品以外にも中長期の温室効果ガスの削減目標を始めと

する事業所運営や、生物多様性保全等の事業活動にかかわる意欲的な行動目標を設定し、環境活動を推進しています。

また、カシオは事業運営と関連するさまざまな分野での社会問題の解決に、ステークホルダーとの意見交換を通じて取り組んでいます。

特に学校教育の側面では、日本のみならず海外でも、教材の使い手である先生方とのミーティングを継続し、教え方の研究や、製品開発へのフィードバックに努めています。

製品開発の側面でもインド式の桁表示ができる電卓を開発する等、グローバルに身近なところで人々の不便さの解消にも継続して取り組んでいます。

一方、将来世代に対し、よりよい社会を継承するために、「カシオ科学振興財団」を通じた若手研究者による先駆的かつ独創的研究に対する助成を継続して実施しています。対象分野も電子・機械工学のみならず、健康・省エネ関連の自然科学、人文科学にまで広げ、幅広く将来の科学技術の発展に貢献しています。

その他、将来の社会の主たる構成員である子供たちを対象に、独自のプログラムに基づく次世代育成教育も継続して実施しています。

これからも、カシオは持続可能な社会の実現に向けて、「創造 貢献」の経営理念を実現し、世の中に新しい価値を提供し続けると同時に、カシオが事業を進める上で関連する環境や社会的な課題の解決に、経済・環境・社会の三つの側面のバランスを取りながら取り組んでいきます。

「グローバル・コンパクト」への参加について

カシオ製品はグループ内だけではなく、国内外を問わず多くの部品メーカーや製造委託先企業の皆様のご協力によって作られています。従ってカシオがグローバルに事業を推進していく上で、人権・労働・環境・腐敗防止に関して、国際的に認められた規範を遵守し、社会的責任を果たしていくことが、国際社会の持続的発展につながると考えています。

こうしたことから、カシオは2010年12月に「グローバル・コンパクト」に加盟しました。今後は、企業経営のあらゆる側面にこの原則を取り込み、その実施状況を適切に開示していきます。

さて、本レポートには、こうしたカシオの主として2010年度における取り組みをご紹介します。ステークホルダーの皆様には、是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。皆様方の貴重なご意見は、さらに今後の取り組みのレベルアップにつながるものと考えています。今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長

梶尾和雄

Kashio Kazuo